

その「物語」、の物語。

「ペログリ」的複眼思考の味わい vol.168

a taste of Ya'ssy

田中 康夫



たなかやすお ● '56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。小説「33年後のなんとなく、クリスタル」を'14年に河出書房新社から上梓。【公式ブログ】http://www.nippon-dream.com/

「友愛の精神」と「資本の論理」が合体し、知らぬうちに日本が「選択する未来」とは!?

今週の逸品



サバ塩焼き定食 700円
フタ唐揚げおろしポン酢定食 820円

真っ当な料理を供する環八沿いの「さと」は早瀬一秀、美恵子夫妻が営む食事処。定食価格の内ネギ炒め740円、鶏肉ニンニク焼き820円と何れも美味。世田谷住民だった往時から20数年、現在も通う逸軒。全国津々浦々で真っ当に働き・学び・暮らす人々が勇気と希望を抱いて共に暮らす地域社会こそ日本が培ってきた「国柄」。「日本列島は日本人だけのものではない」発言に反発した面々は何故、沈黙を続けるのか。

【お食事処さと】東京都世田谷区上野毛1-1-1 電話非公開
営11:00~14:00、17:00~20:30 火曜定休 禁煙

illustration by Hajime Anzai



「多様な民族を受け入れる姿勢」を日本には必要だ」と「高邁な理念」を語る人々が居ます。
建国記念の日にあたる2月11日に曾野綾子女士が、20〜30年前に南アフリカ共和国の実情を知って以来、私は、居住区だけではなく、白人、アジア人、黒人というふうに分けて住む方がいい、と考えるようになった」と持論を披瀝されてからは従前にも況して。

その後に彼女は「アパルトヘイトを称揚したことなどありません」と否定する一方、「チャイナ・タウン」や「リトル・東京」はいいものでしょう」と文書で回答。「私はブログやツイッターなどと関係のない世界で生きて来て、今回、まちがった情報に基づいて興奮している人々を知りました」との一文も相俟って、法律で居住地域を定めるのと中華街等の商業地域は全く別の話でしょ、と「ブーメラン炎上」を起こしました。

現行憲法が第22条で定める居住移転の自由、職業選択の自由を端から否定するのは、「改憲・創憲・護憲」何れの見解に立とうとも、嘗ての破綻した社会主義計画経済を未だに信奉する時代錯誤な御仁と同じ穴の貉に陥る蛮勇。「保守派の論客」として長年に亘って言葉

を紡ぐ生業を営んできた曾野女士らしからぬ釈明です。
が、誤解無き様。凡百の揚げ足取りに組み立てるのが本稿の趣旨ではありません。冒頭で紹介した「友愛の精神」の持ち主は皮肉にも「労働力の補充の為に、日本は移民を受け入れねばならない」と曾野女士も唱える「資本の論理」を後押しする「触媒」となっている点

を僕は憂慮するのです。
初代首相の長男が現在の首相。次男は国内最大通信企業CEOを務め、航空会社や金融機関等の政府関連企業の持株会社トップを現首相の妻が最近まで務めていたシンガポールは、富裕層にとって暮らしやすい国家。
が、人口540万人の4割近くは「非ホワイトカラー」外国人労働者。更なる外国人労働者受入政策を表明する政府に対し、仕事を侵食される中低所得者層の不満は増大。神経を尖らす政府は、TV局等の既存メディアへの報道統制に加えて一昨年、シンガポールに関する「オンライン上のニュースサイト」も情報通信省から認可免許取得の条件が課せられました。
2020年を目標にトレンドを変えていくことで、50年後にも1億人程度の安定的な人口構造を保持することができると昨年6月24日に閣議決定した「骨太方針」は、「移民を年20万人ずつ受け入れた場合1億1000万人程度を維持」と内閣府提出資料に明記された経済財政諮問会議「選択する未来」委員会での議論と平仄を合わせています。それは100年後には人口の過半数が非日本人となる話です。
「友愛の精神」と「資本の論理」が合体し、国民の大半が認識せぬ内に日本が「選択する未来」とは、果たして如何なる「国柄」をもたらすのか。僕は憂慮するのです。